第１回まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生作戦会議
議事録（要旨）

平成 27 年 7 月 6 日（月）午後２時～
養父市役所２階第１会議室

【市長あいさつ】

・この作戦会議は、ふるさと養父市創生総合戦略を策定する上で、重要な会議。次回からはプレスにも周知し、PR するようにしていきたい。
・委員は、産官学金労言と幅広い分野で構成されるのが望ましいが、労と言の分野が入っていない。メンバーを増やすのではなく、別途意見を聞く場を設けるなど、今後柔軟に対応していきたい。
・18 自治協議会ごとに開催したタウンミーティングでの市民の意見は、良い意見も出ているが、固定観念にとらわれているものある。市民の意見にヒントを得て、戦略を作り上げていく。
・国や県では基本認識や基本的方向性を示しているが、養父市の総合戦略をどこにでもあるものにはしたくない。養父市の地域性、住民の気質にあったものにしていきたい。
・まちがっても金太郎飴をきったような全国の他の自治体と同じ総合戦略にはしたくない。こうあるべき、こうして欲しいということも言っていきたい。
・人口 25,000 人の小さなまちだが、養父市の挑戦（国家戦略特区の指定）がきっかけとなって地方の制度が変わっていければ平成の大改革ということになるであろう。

【委員長・副委員長選出】

・委員長に畑正夫兵庫県立大学教授、副委員長に植村和好自治協連絡協議会会長を選出。

【意見交換】

◆I ターン・U ターン

・I ターン者が結構多い。また、孫が帰ってきているケースもある。今の若い世代は、親の世代ほど田舎が嫌いということもないので、孫ターンを提案して

いったら地域にとってもよい。
・同級生の若い世代が意外と養父市に帰ってきている。
・子どもの将来を考えたら 20 年後帰ってきてくれるか気がかり。車の購入など経済面で自分たちが親にしてもらったことを子どもたちにしてあげられるか不安。そうなると都会で生活しなさいと言わざるをえない。

（田舎居住）

・田舎に行きたいと言うけど行動を起こさないのが団塊世代。
・リーマンショック後の 10 万人を対象にしたアンケートでは、田舎に行って働きたい人が３割いた。移住の前提条件で考えていただきたいのは、戻ってくる人はその３割に含まれているが、田舎で生活できるかどうか不安があり、そこが課題。年配者が田舎に行きたいのではなく、若い人が自活のために田舎に行きたがっていることを認識して欲しい。
・ここに住んだ方が有利だと判断しないと住まないと思う。
・田舎のよいところはお金がなくても生活できること。但馬には食料、空気がある。安定した生活ができるようになれば若者も来る。

◆仕事・雇用

・市内各地域の小学校の統廃校が続いた。学校をつぶさないためには息子を戻すしかないが、職がない。
・20 代 30 代の友達が多いが独身が多い。帰って来る人はいるが職がない。職がなくても帰って来る人もいる。
・食料とエネルギーが重要。それで皆が生きていくことも重要。今は電力、食料ともに大手企業に取られているが、それらを地域で産業化していくのがよいのではないか。
・オンリーワンの観光、産業が必要。

（起業が重点）

・但馬では大学を卒業後に男性は 40%帰ってくるが、女性は 15%しか帰ってこない。同じ仕事なら都会の方がよい。養父市ならではの起業等を重点的に育成していく必要がある。
・よそから企業を誘致するのではなく地元資源を活用した起業が大切。

（ふるさとを支える技術）

・地元で若い人を雇用したいと思っても地元に林業の学校がない。地元にこれ

だけ山があるが活かせていない。学校はあっても林業科がない。

◆養父の強みと弱み

（魅力を引き出す）

・養父市で活用できるものは何で、強み弱みを一度整理するのが大事。弱みは養父市のみではなく全国共通の構造的なものがあるかもしれない。強みがあるのかないのか。

・いいものがあるとすれば、それは何なのか。魅力、住もう、働こうという気にさせるものは何かを探る必要がある。

（自然を活かす）

・都会になくて地方にあるものは、自然であり、これを守って活かすことが地方の使命だと思っている。よいところを口でいうのも大事だが、実際に来てもらうのがよい。養父市の観光業はまだまだレベルが低く、観光客を感動させることができるかは疑問。レベルをあげるには、自然を活かす配慮や観光推進の条例を施行することも必要。

（農業）

・中山間地域を意識した農業のあり方を検討すべき。農業を産業として確立することには限界があると思う。農業ではない農があると思う。

◆これまでの反省材料が必要

・今やろうとしていることは、地方の都市がこれまでやってきたこと、それがうまくいかなかった。何をやって何が悪かったのか、反省材料が必要。

・これまで産業振興分野の会議に出てきたが何も変わっていない。きれいごとばかり言っていてもしょうがない。

・いろいろやってきて、何が変わったのか。リスクを自治体が取れるかどうかが肝になる。農学研究中だが、研究者としては面白いが住んでいる人にとってはリスクがある。リスクを住民に取らせる覚悟があるのか。リスクを取ってでも挑戦すべきということがどこまで認められるか。

◆若い人目線

・婚活等があるが、若手の目線にされてもよいのではないか。若い人が盛り上がることができ、縁が結ばれるような仕掛けが必要。

◆子育て

・子育て中の親の話を聞いてもらう場をつくってほしい。企業がきて就職しても子育て面が充実してなかったら他市に住むという人が多い。交通が便利、医療機関があること等を若い母親は考えている。

・養父市は制度の見直しで保育料が極め細やかな制度設計となっており、お得感がある。1 人目が小学校の間は 3 人目が無料ということでとても魅力的。

・公園等屋外で遊ぶところはあるが、休日に屋内で遊べるところがない。但馬の冬は長いのでそのような施設があるとよい。

◆教育の重要性

・今の小学生が地元にどうしたら残ってもらえるか考えていく必要がある。学校でも考えさせて学習させていくことが必要。都会の魅力にはかなわない。大人になったときにどれだけ地域に残っているか、学校教育の中で教えていかなければならない。人口増加は難しいが食い止めていくことは可能。

◆医療機関

・養父市にないものは休日診療で、八鹿病院に依頼しても担当医がいないので豊岡まで行かなければならない。

・地方の公立病院はどの地域でも（医師の確保が）難しい状況。若い医師が集まらない。地域のために何とかしたいという気持ちを今の（八鹿病院の）先生はもっている。周産期医療、小児科、産科の先生を増やそうと頑張っている。循環器疾患は急ぐ病気で大きな課題で、すぐに対応できるように病院を充実させていくことを考えている。できるだけのことはしているが、今すぐみつかるような環境でない。状況は十分に把握しているつもり。

◆その他

（人口減少のスピードの問題）

・日本より小さくても豊かな国はたくさんある。人口の多寡は比較にならない。人口の減少のスピードの問題が人の暮らしに影響を与えることが問題。

・養父市は、今の人口で落ち着けばよいのかもしれない。

（財政収支の見通し）

・財政収支の見通しが悪化する中で、公共工事が減少し各インフラの維持がで

きなくなったらどうなるか。

・養父市の行政経営としての財政指標をわかりやすく情報提供してほしい。

（地球環境との共生）

・地球環境との共生ができる社会を今こそ目指すべきである。自然と共存、永続可能な社会を養父市から作っていくべき。

（その他）

・IT で頑張ろうと思う人は地方にいるべきではなく、どんどん都市に出て行くべきだと思う。

【次回以降開催予定日】

・次回８月４日（火曜日）を予定するが、改めて通知する。

・大まかな日程は次のとおり

第２回：８月上旬　　第３回：８月下旬

第４回：９月上旬　　第５回：９月中旬以降